

会 議 録 (要旨)

会議の名称	令和5年度 第4回 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会	
開催日時	令和5年10月30日（月曜日） 午前10時00分から午後12時30分	
開催場所	小平市役所 地下会議室	
出席者	委員13名（うち公募委員6名）欠席1名 傍聴者2名	
会議資料	◆資料1	小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会委員名簿
	◆資料2	第3回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会議事録
	◆資料3	施策とアクションプラン50の振り分け（プラン1～20更新、新規施策追加）
	◆資料4	第二次小平市観光まちづくり振興プラン（素案） （アクションプラン1～20まで反映した内容）
	◆別紙1	今後のスケジュール
	◆別紙2	キャッチフレーズに関するアンケート
説明事項	1. 第3回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会要旨について 2. アクションプランの振り分けについて 3. 素案について 4. 事務連絡	

● 会議事項

1. 第3回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会要旨について	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	◆資料説明：「第3回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会議事録」【資料2】

2. アクションプランの振り分けについて	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	◆資料説明：「施策とアクションプラン 50 の振り分け（プラン 1～20 更新、新規施策追加）」【資料3】
委員長	・今の説明に対して質問や意見があればお願いしたい。
委員	・この表を見ると、50 を超える数になると思う。前は 10 年間で実施期間 50 ということであったが、今回は 4 年間なので実現可能なのかと感じる。
委員長	・今施策ごとに振り分けていて、重複しているものもあるので、50 を超えているように見える。
事務局	・施策 1～7 で、内容的に見てどちらに振り分けるかは、最終的に判断していくのでどちらにも含まれるものについては両方載せている。
委員	・子どもの施策を追加しているので、50 を超えるのではないかな。
委員長	・前回検討した中で、減ったものもあるし全部検討してみないと増えるか減るかはわからない。
委員	・30 程度ができる範囲なのではないかな。手を広げ過ぎても出来ないのではないかな。
委員長	・そういう視点で、21～50 までを検討し、これとこれは名称を変えて合体できるのではないかなという議論をやっていったらいいと思う。例えば情報発信の強化については、多岐に渡っていて、具体的に書かれているものと、漠然と書かれているものがある。10 年を経て進展していると思うので、その辺りを考えていただきたい。
事務局	・プラン 21 について、これは施策 7 に入っている。イベントの質向上ということで、現状の振興プランでは、取り組むべき内容として、小平グリーン

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	ロード沿いで現在開催しているイベントにおいてニーズ調査を行う等、集客力を向上させる方法を探るとあるが、コロナ禍でイベント等が中止になり、調査ができていないので今後も継続することが望ましい施策だと考えているがどうか。
委員	・プラン 21 のイベントの質向上と、プラン 39 のテーマ別のイベントの企画と、プラン 42 の話題性、インパクトあるイベントの企画というのは、ほぼ同義だと感じる。
事務局	・ニュアンスの違いはある。プラン 21 はグリーンロード沿いで現在開催しているイベントにおいて集客力の向上という形になっている。プラン 39 は市民や来訪者にアピールするテーマ別のイベントという形になっている。プラン 42 は事業者や市民が一体となって小平でしか味わえないイベントということで、関連はしているが、目標が 10 年前は違ったので、別々になっている。皆さんの意見をいただき、統合可能であれば問題はない。
委員	・厳密にこれに当てはまると考えてやっているわけではないので、1 つの項目にまとめるのは可能だと思う。プラン 21 の質の向上に関しては、どういう満足度があるか知りたいということが観点なので、若干方向性は違うが、プラン 39 とプラン 42 は合わせても差し支えないと思う。
委員長	・これまでにやった事としては、アンケートを実施して取りまとめ、この次に活かすための材料を得たというのが、これまでの成果としてあるということで、後でプラン 39 とプラン 42 の話が出た時に確認したい。
事務局	・プラン 22 については施策 2 と施策 5 に載っている。小平市グリーンロード推進協議会が観光まちづくり協会に統合され、現在この組織はない。活動自体は継続しているので、削除ではなくどこかに入れるか別立てする形がいいと思うがどうか。
委員長	・プラン 1 小平観光まちづくり連絡会の設置の検討の中で、設置したので削除ということであったが、こだいら観光まちづくり協会が今後、どのようなことを進めていくのかについては、この中に散りばめられていると思う。プラン 22 の小平市グリーンロード推進協議会の活動広報強化の文言はなくなるが、市とこだいら観光まちづくり協会が一緒に行っていく事や、こだいら観光まちづくり協会が独自に行っていく事をどのように進めていくのか、今後のチェックポイントとして残していきたいと思う。

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 23 地産地消の推進及び情報発信は施策 5 に載っている。地産地消の推進ということで、農産物直売所マップや、ブルーベリーまつりでブルーベリーの地産地消を進めているので、継続が望ましいと考えているがどうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小平市内にはファーマーズ・マーケットだけではなく、直売所がたくさんあり、そのマップも制作されていて、巡れるようになっているが、購入者側からすると、その日に行ってその日の楽しみというのもある。可能であればライブ映像で、今日はこんなラインナップでというのがあればいい。また、健康志向の向上に野菜はいいと思うので、そこで水で洗って食べられたり、つまんで食べられるようなカップ野菜があれば、昼休みに行って買って食べられたり、自然のもの、採れたてのものを口に入れられたら、市民としては嬉しい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の中身をどのように作っていくか、とても具体的なアイデアだと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライブ映像は 1 軒だけやっている花屋がある。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 24 も農と関係する話なので、次に進む。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある直売所の情報発信強化ということで、小平市には 200 ヶ所以上の直売所があるが、期間限定で販売を行っている。例えば柿農家であれば、柿がなっている期間だけ販売するなど、短い期間しか販売していない直売所が多い。そのため、直売所マップに載っているのは 80 ヶ所程度になってしまう。それでも他市と比べると驚異的な数字のため、こだいら観光まちづくり協会にマップを作っていただいている。先程のプラン 23 と統合も可能だが、地産地消については、直売所だけでなく、販売も付いてくるので、統合するかどうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 つにすると大きくなりすぎてしまうので、できれば別にした方がいい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の形でいいと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先程カップ野菜の話が出たが、専門の施設や保健所の許可が必要になるが、取得している農家は数軒しかない。その数軒の農家でジャムの加工が行われ、市内で色んなジャムが作られているが、皆委託してほぼ 1 軒の農</li> </ul>

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	家で作られている。あと 1 軒は自家製キムチを作っていたが、今は手が足りなくて作れていないという状況なので、あまり活用されていない。加工まで農家がするのは難しい面があるので、しばらくはこのままの形がいいのではないかと考えている。
委員長	・まずはこのまま継続して、ライブ配信をしている農家の様子を見て、具体的に他でも技術を使ってできるのかどうか、また強化の部分でアイデアが具体的にあれば、プランに加えていく。
事務局	・プラン 25 観光農園情報の充実については、市民及び来訪者のいずれもが気軽に観光農園を利用できるよう、観光農園の情報を今まで通りまとめて提供するという事で、継続という形がいいと思うがどうか。
委員	・これは農園個人で発信しているのか。
事務局	・市や観光まちづくり協会のホームページにも載っている。ブルーベリーマップがあり、そういう所でも情報発信をしている。
委員長	・これは情報発信の充実という事で、継続ということによろしいか。次のプラン 26 以降農業関係もあるので、そこで質問や意見があればお願いしたい。
事務局	・プラン 26 の農地の保全については、東京むさし農業協同組合と、災害時における生産農地の活用と生鮮食料品の調達に関する協定を結んでいることや、農産物の学校給食での使用により食育の一部を担っていること等をもとに農地を守っていくという形で前回のプランには載せていたが、観光まちづくりの観点だけで農地を保全していくというのは、テーマが大きすぎるので内容を見直した方がいいのではないかと事務局側は考えているがどうか。
委員	・農地として活用されていないところは結構あるのか。
事務局	・遊休農地は小平市にはないが、問題農地というのがある。例えば一人で農業に従事している方が、入院して一定期間耕作していない状況で、休耕させて 2・3 年後にもう一度使う場合がある。一般の方から見ると農地として使っていないとなるので、遊休農地ではなく問題農地としている。

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜこの質問をしたかという、観光まちづくりという観点からすると、もし遊休農地があるのであれば、有効活用して、昨今アグリツーリズムという言葉があるように、そういう所へ展開するというのも1つで、ひいては農地の保全につながるのではないかな。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同意見で、農のある風景や景観は地域資源の魅力の1つである。これについては農地の保全という言葉ではなく、農業のある風景の保全や、農業のある風景の活用等別のタイトルが適切である。情報発信にもあるが、シビックプライドには風景の保全や活用は触れられるのではないかな。農地の保全というとテーマが大きすぎるが、観てそれがいいと思う部分に絞っていくと、施策として取り組みやすいのではないかな。あと、学校給食に活かされているのは素晴らしいと思うので、シビックプライドが情報発信であるのかはわからないが、つながるのではないかな。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の話は、プラン 23 の地産地消の推進の方に含めるような形で、農地の保全という名称については、保全というと難しい。農業のある風景の活用の方がいいのではないかな。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に若い世代は魅力に感じると思う。新しく加えた施策4の子育て世代の内容の部分にも出てくる話になるので次に進む。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 27 調べ学習等による郷土教育の充実では、調べ学習の機会を利用し、「としょかんこどもきょうどしりょう」や視聴覚ライブラリーのビデオ教材等により子どものうちから小平の歴史に慣れ親しんでもらうということで、学習課題解決のために、書籍・インターネット・聞き取り等の方法で目的をもって主体的に情報を収集、取捨選択した上でその内容をまとめ、発表する調べ学習を活用した内容となっている。これについては小学校で、地域に出向き聞き取り等を実施している。また観光まちづくり協会でも郷土の偉人を題材にした漫画を発行している。郷土に愛着を持っていただく上でも継続していきたいと事務局では考えているがどうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校だけでなく、中学校でも継続的にやっていくことが大事だと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途切れることなくずっと教育としてあった方が良い。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここには小学校のことしか書かれていないが、課題としては中学校も継続した形が望ましいという意見だが、他の委員はどうか。</li> </ul>

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校は受け身の学習かも知れないが、高校・大学になると発信者として魅力を発信してくれるような、そういう人づくりは極めて重要である。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一例として小学校の取組を記載しただけで、小学校に限定しているわけではない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい下水道館にキャラクターがいて面白い空間になっている。鈴木遺跡もなってこれから工夫する予定はあるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鈴木遺跡については保全する公園を、鈴木小学校の南側約 7,000 m<sup>2</sup>の広大な土地にこれから整備する状況である。しかし、鈴木遺跡が地下に埋まっ ていて、全体を発掘するとなると、住民に移住してもらう必要がある。一 部の掘り出し物しか展示されておらず、資料館については担当課の方で皆 様に喜んでいただけるように工夫しているように聞いている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定の遺跡になったことは、すごいことなので盛り上げていけたらと思 う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩六都科学館辺りの旧石器時代の遺跡や地形の情報収集をしたり、連携 して企画を考えたりすることもあると思う。そういったことも活用して PR していければいい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 28 緑の保全や用水路等の整備については、「みどりの基本計画 2010」に基づく緑の保全や、用水路の整備、小平市グリーンロードの整 備、「あかしあ通りグリーンロード化基本計画」を進める、という形にな っているが、観光まちづくりの視点において、緑の保全や整備という形は 難しい。緑や用水路のもつ景観の活用という形で見直しを検討したいがど うか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先程のように大きなテーマだが、先程と違うのは、用水路を整備するとい うのは、お金もかかりハードウェアの基盤整備になってしまう。その観点 から言うと、観光案内所や観光案内板、トイレ等の環境基盤を整備する という範囲にまとめてしまうのも 1 つかもしれない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のタイトルだと公園課がやることが書かれている感じなので、文言をか えて具体的にした方がいい。実際に整備はしているのか。</li> </ul>

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用水路はもともと農家が使っているもので、ほとんどが農家の敷地内に入っている。小平市内には用水路網が約 45 kmあり、半分以上は水が流れていない状態なので、観光まちづくりとしては、水と緑と公園課と連携をして、親水エリアの拡大を考えていければいいと思っている。現在親水エリアは 13 ヶ所あり、マップが水と緑と公園課にある。マップには水辺で子ども達が遊べる場所も載っている。小平の用水路に流れている水は、100%多摩川の水がそのまま流れているので、多摩川の魚もたくさんいる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の話では観光案内を促進するようなものも合わせた形の活用ということだったので、そういう文章になればいいと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 29 ストーリー性を持った歴史的景観の PR については、玉川上水、用水路、寺院・神社など地域の歴史を掘り起こし、武蔵野新田の開発などの PR 方法を検討し、特に玉川上水の小平市区間は他にない独自の景観であることの十分な PR を行う。小平市の新田開発がされてから約 350 年だが、歴史の変遷、ストーリー性を持った部分について PR していく。継続と考えているがどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農のある風景や農業の活用にリンクしていて、プラス寺院や神社になっているが、その辺の書き分けが出来れば非常に良いと思う。あとは案内板の設置や案内所の機能強化にも関わってくるので、今は施策の 3 に振り分けられているが、どのように振り分けていくか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観ベスト 10 という事業で、小平の景観について投票してもらった。市民からみた景観の意識や情報が集まってきたので、そういったものを使いながら、今後展開できるのではないかと考えている。特にガイドが非常に熱心にこの事業に取り組んでいて、何気ない景観でも、用水路の通っている意味等、ガイドが掘り起こしていつているので、引き続き可能性のある部分だと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私はシビックプライドにも関連していると思うが、どちらかに振り分けられると思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 30 の観光ガイドの養成は施策 3 に含まれている。市内各所のエリアごとに観光ガイドを養成し、見どころや案内等を行う。先程の話にもあったように、観光ガイドが非常に頑張っているが、高齢化で辞める方も出てくるので、今後も継続と考えているがどうか。</li> </ul>



## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
委員	・ガイドを年代別に分けるといいと思う。
委員長	・次にも関連するので、次に進む。
事務局	・プラン 31 学生発信企画の受入及び実施は、こだいらブルーベリーリーグをはじめ、学生が発信する企画等を受け入れ、実施する体制づくりを進めるとしている。コロナ禍ではほとんど活動できなかったが、今後も続けていきたい。
委員長	・実施した内容の所に書いてあるが、ブルーベリーリーグという小平市大学連携協議会があり、この中で市内の大学生が色んな事例を発表して、市民の方と交流している。在学だけでなく在住の人に、周知出来ていないので、小平市の活動に参観するチャンスを広げていけば良いかというのが課題である。大学連携協議会等の機会を通じて、大学の枠を越えたチームが時々できて、「うどんと彫刻」といった独自企画をして、若者が若者に発信して、小規模のツアーをするといった試みをしている。今はそういった事例は少ないが、大学側としては機会を増やしていただければと思う。
事務局	・プラン 32 市内各学校の出身者へのアプローチは、施策6と施策2に入っている。市内各学校の出身者へのアプローチを行い、それぞれの分野で小平市のPRをしてもらうための取組を進める。観光まちづくり大使等にもつながる話なので、プラン17と統合してはどうか。
事務局	・皆さん賛成のようなので、プラン17と統合する。
委員長	・プラン 33 企業博物館のPRは施策3に入っている。市内にはゴムとタイヤについて学べるブリヂストンの博物館や、ガスの歴史が学べるガスミュージアムがある。これらの企業博物館を地域資源として活用するということで、ブリヂストンイノベーションギャラリーと名称が変わっているが、引き続き観光資源の1つとしてPRしていきたいがどうか。
事務局	
委員長	・ブリヂストンは地域連携や共生社会をテーマに企業活動に取り組んでいる。市内の各団体との連携が少しずつ進んでいるようだが、ガスミュージアムの方は何かあるか。
事務局	・ガスミュージアムも灯りまつり等のイベントの際に協力していただいている。

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
委員長	・他の企業はどうか。
事務局	・工場見学という形はあるが、博物館等の大きなものになると、この2つである。
委員	・これは博物館に限定する必要があるのか。
事務局	・限定する必要はない。
委員	・企業とタイアップして色んなことが出来れば楽しいと思う。
委員長	・博物館「など」と入れると広がると思うのでお願いしたい。
事務局	・プラン 34 モデルコースやモデルエリアの設定および情報提供は施策3に入っている。小平グリーンロードや鉄道駅を中心に、丸ポストやオープンガーデンなどの地域資源、工場見学など、小平市の特色がわかるモデルコース等の設定を行い情報提供する。色々なモデルコースを観光まちづくり協会の方で設定していて、市民から非常に好評を得ており、継続と考えているがどうか。
委員長	・観光まちづくり協会から何かあるか。
委員	・色々なコースを作ってやっているの、今後も展開していきたい。
委員長	・鉄道事業者からは何かあるか。
委員	・西武も数多く設定し集客できる活動になっているので、時期等の検討を含めて、来年も作っていきたいと思っている。学生発信企画も盛り込んでいたらと考えている。
委員長	・学生はどうか。
委員	・ウォーキングハイキングという企画があって、小平絡みのコースが非常に多くあり、シニアのファンが多く、味のあるコースが多い。先程の企業の連携という話があったが、行ったことのない工場見学のコースがあるので、地元の大学と連携しながら学びの場として、提供出来たら面白いと思う。

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J:COM がモデルコースを映像化し放送した際に、是非行ってみたいという声をいただいている。そういった面でも企業にご協力いただければ、さらに進めていけると思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続だけではなく、拡大の期待が大きいということである。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プラン 35 地元プロサッカーチーム FC 東京の応援強化について、小平市には FC 東京の練習場がある。地元のチームであるという意識を市民も選手も持てるようにするために、地域ぐるみで応援することで、シビックプライドの醸成を図る。市の職員がユニフォームを着て業務を行う FC 東京の日を設けて、市を挙げて応援している。観光まちづくり協会でも様々な形でアピールしていただいているので、継続と考えているがどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拡大していききたいのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可能であれば拡大していききたい。表現が応援強化となっているが、他の表現に替えた方がいいか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他市ではどんなことをやっているのか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 隣接市でも同じように、子どもに観戦チケットをプレゼントしたり、FC 東京がサッカークリニックをするので、その宣伝を行っていたり、関係している所は同じような形で足並みを揃えてやっている印象である。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京王線の車内では広告動画に FC 東京の宣伝が出ていて、すごく効果があると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 府中市がラグビーのまち府中ということで、東芝とサントリーと三角形のポスターを作っている。府中市内の各駅には、選手の等身大パネルを置いて、ワールドカップの機運醸成を図って、相当力を入れていて、リーチマイケルも帰ってきてから挨拶に来たぐらいであった。それ位やってもらうと PR になると思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商店街のフラッグはあるが、それ以外の場所では目に触れないというのが正直な印象である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FC 東京は、様々な所にブランドや施設を持ったりしているので、どこかの</li> </ul>

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
委員	自治体にだけ手厚くということはない。どうしても横並びになってしまう状況である。小平市としては、FC 東京も応援しているし、西武鉄道が市内を網羅しているので、西武ライオンズのファンも応援している。40 周年の時には、小平駅前の大花壇を西武ライオンズカラーに統一した。
委員	・小平駅にドロンパがいるが、作ってから観光に影響があったか。
事務局	・今年度ぶるべーのクラウドファンディングを7月から9月で実施した。情報発信の中でツイッターの効果があり、期間中ずっとツイッターを見ていたが、9月に観光まちづくり大使のFC東京の吉本氏がコメントしてから、FC東京ファンの方の閲覧が増えた。モニュメントを見たというツイートも紐付いて拝見できた。ファンの方にとっては特別なものという印象があるので、何かの折に来て、写真をとるような観光資源に仕上がっているのではないか。
委員長	・地域資源のポイントの1つということで、拡大とまでは行かず、継続でということ、次に進む。
事務局	・プラン 36 各施設の包括的な広報は施策2・3に入っている。小平ふるさと村、平櫛田中彫刻美術館、鈴木遺跡資料館、ふれあい下水道館の特徴を際立たせた広報をし、さらに各施設を包括的に広報することで、魅力アップにつなげる。前回の会議で18・19を一つにまとめたが、そこに入れてしまうのか、観光農園と同様に一つの独立したプランとして残すのか、ご審議いただきたい。
委員	・PRの方法について、個別に紹介するのかまとめて紹介するのかは両方ある。そういう意味ではテーマ別になっているのもいいし、包括的になっているのもいいと思う。1つだけ大きな魅力的な社会資源があるわけではないので、細かいものを集めて包括的に明記する方法もあると思う。
委員長	・各施設というのがポイントなのか。
委員	・この計画を作る時に地域資源プログラムというのがあるが、各施設をバスで回るというイベントをやったことがあって、様々な施設を周れて小平が面白いということを確認できた。もっとPRしていききたいという視点でこの項目を独立させたと思う。

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策2の情報発信の強化に位置付けるとしたら、各施設ではなく違う言葉になると思う。観光資源の方に位置付けるとしたら、各施設とは何になるのか。振り分けをどちらの重心にするか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平櫛田中彫刻美術館やふるさと村は価値が高い。鈴木遺跡も価値が高いのに、PR やアクセスの問題で、観光資源活用まではいってない。観光資源の価値に重きを置いた方が、いいものになる。広報に入れるともったいない。これは立派な観光資源であるということを知らしめるようなプランになっていた方が価値は高い。彫刻が好きな人は全国にいたので、キャッチしやすいようなプランになるのではないかなと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう1つのポイントとしては包括的かどうかということだが。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両方必要である。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しい情報提供がどこかにないと、情報価値が高まらないというのは確かにそうだった。平櫛田中彫刻美術館も全国から来るような施設だと思うが、詳しい情報提供が市民や一般の人にとっては難しかったりする。詳しい情報がないと包括的な広報というのも考えにくいと思った。タイトルの表現を変えるということで検討する。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 37 アートに触れられる環境整備については、施策3と5に入っている。小平グリーンロードの狭山・境緑道には「彫刻の小径」として齋藤素巖のブロンズ像が16基17作品提示され、また市内には「武蔵野美術大学」があり、秋には中央公園で「小平アートサイト」を開催する等、地域と深く関わっている。これらを中心にこだいらまちなかアートとして、市内のいたるところでアート作品に触れられる機会を増やしPRするという形で、現在、彫刻の小径等は憩いの場となっている。今は齋藤素巖のブロンズ像の清掃等をボランティア活動で行っていただいている。こちらも継続した方がいいと思うがどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵野美術大学に美術館図書館がある。一般の方も無料で入れるので、加えていただきたい。大学の方に一声かけてもらえれば大丈夫だと思う。継続ということで、次に進む。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 38 地域で活動している人の紹介は、施策2に入る。NPO やボランティア団体、自治会、国際交流会など、地域で活動している団体や個人に</li> </ul>

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	スポットをあて、多くの方に活動を広く知ってもらえるようにする。どのような方法で広報していくのかという課題はあるが、小平にはこんな人がいると紹介していくこと自体は良いことではないかと思うがどうか。
委員長	・これは常に新しい人材が発掘されるということか。そうでないと、いつも同じ顔ぶれでは意味がない。ぜひ継続でお願いしたい。
事務局	・プラン 39 テーマ別イベントの企画については、これは先程の話に出た、プラン 21・プラン 39・プラン 42 を一緒にするかということであったので、プラン 42 もまとめて説明する。プラン 42 は話題性、インパクトのあるイベントの企画で、事業者や市民も一体となって取り組み、特徴的で小平でしか味わえないイベントを企画するということだが、この3つをどうするか。
委員長	・事業は継続していくが、プラン名をどうするかということである。10 年間取り組んできてどうだったのか。
事務局	・灯りまつりを 20 年前に実施した時は、今のようにボランティアの方は一切いなかった。1 か月前でも行灯が 30 個しか集まらなかったという状況で非常に苦労したが、徐々に皆さんに認知され、ボランティアがどんどん増えていき、それが今に繋がり拡大しているイベントもある。また、ずっと昔から変わらずに続いているイベントもある。逆に規模が縮小されたイベントも出てきている。イベント自体については、どれが成功で失敗かとは一概には言えない。
委員長	・プラン 42 は未実施になっているが、できなかったのか、これからやるのかどちらか。
委員	・やっているように思う。
委員長	・プラン 42 はプラン 39 と限りなく合体できるということか。
事務局	・プラン 21 の質の向上というと、意味合いが変わってくるが、プラン 39 とプラン 42 は統合できるのではないか。
委員	・アクションプランは直訳すると行動計画になる。目標達成までのプロセスを具体的なタスクに分けて、いつ・だれが・どのようにするかを明確にす

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
委員	<p>るために作成している。10 年前のプラン名は盛り上げていくことを目的に計画を作っていて、今は 10 年が終わった時の計画を作っている。テーマは 2 つとも変わるか、もしくは統合してもいいが、今回作っているプランの中身に合った内容のプラン名、例えばシビックプライドを挙げているので、市民と連携したイベントの企画等のプラン名になると思う。「小平市は市民活動がすごい」「市民で独自にできる」「面白いイベントがあり、様々な人がやっている」ということで、他市から遊びに来てくれるので、素案等に合わせて行った方がよい。市民との連携が小平市の特色であるというような表現がいいと思う。あと、10 年前はテーマ別のイベントではなく、テーマがないようなイベントを行っていたが、テーマのあるイベントがこの 10 年間で充実したと思うので、より住みよい等のアクションプランになっていくと思う。素案の方から入ってくる言葉のプラン名がいいと思う。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民との連携がキーワードになってくると思うが、プラン 40・プラン 41 も関係するので説明をお願いしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 40 準備段階からの市民参加について、まつり等は準備段階から多くの市民が参加できる環境づくりを進めるということだが、この準備段階というのはまつりを立ち上げる段階での準備なのか、それとも毎回のまつりの準備なのか、その辺についてははっきり書いていないので不明の部分がある。</li> </ul> <p>プラン 41 イベント準備過程の発信について、SNS 等を利用し、イベント開催のお知らせという形ではなく、準備の様子も発信することで、大勢の方に関わりを感じてもらえるような仕組みづくりを行う。イベントの準備という形で入っているので、プラン 40 の方は恐らくイベントを立ち上げる準備と想像する。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 41 は未実施になっているが、何故か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備の様子を発信するということができなかった。今年、灯りまつり等で実施した。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・灯りまつりの準備の様子をツイッターで発信し、灯りまつりが 8 月 5 日にあるので、ぜひ参加してくださいという形で発信した。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 40 の話に戻ると、企画からの準備なのか当日までの準備なのか、準</li> </ul>

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
委員長	備にも色々ある。取り組むべき内容にそこまで踏み込んで書くのか、それがテーマ別イベントの企画や話題性、インパクトのあるイベントの企画や、小平市がどういう所に重点を置いてやっていくのかというスタンスの部分を出せるのではないかと提案だと思うがいかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えばプラン 40 とプラン 42、プラン 41 とプラン 43 という形で合わせることで、次の段階へ進んだ表現が出来るのではないかと。プラン 40 は準備段階から市民参加、プラン 42 も話題性、インパクトのあるイベントの企画ということで、企画段階から市民も参加していくという形で合わせることが出来る。プラン 41 はイベント準備の過程でまつりや伝統行事を守り伝えていく際には、協働が必要になるので、準備の様子も発信するという形で合わせられるのではないかと。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ではプラン 43 の説明をお願いします。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラン 43 まつりや伝統行事を守り伝えるについて、市内には特色のある伝統的なまつりなどの伝統行事が多く残っている。これらを絶やすことなく、守り伝えていくということで、有名な所と言えば鈴木ばやしがあるが、継承者がどんどん減っているということで、プラン 41 を使って準備段階から発信していくことによって、今後も継続が見込まれるのではないかと。このような表現にしていけば、次の計画にもつなげていけるのではないかと。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>私は賛成である。イベントの事前準備の過程を追うというのは絞らないと出来ないと思うので、どういう所にフォーカスしてアピールしていくのか、選んだ方がいいと思う。その点で今挙がっているのは、鈴木ばやしと灯りまつりということか。他にもプロセスを記録して PR するような価値があるものがあれば、情報提供してほしいがいかがか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内のイベントは年間でどれくらいあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>市が企画しているイベントなのか、観光まちづくり協会なのか、地元の自治会なのかにもよる。自治会単位で行うイベントを含めると、恐らく数千単位になってくる。自治会のイベントまで市で把握することは不可能に近いので、市のイベントとまちづくり協会のイベントに限ったイベント、商店街、あるいは神社仏閣で行うお祭りになってしまうと思う。大きなイベントになると、年間で 100 は超えない。</li> </ul>



## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それらのイベントは事前準備の発信はしていないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、サンバフェスティバルでは、準備から SNS で発信して観客を集めるという取組をしている所もある。市では環境フェスティバルやグリーンフェスティバルがあるが、準備を発信することはやっていない。産業まつりや灯りまつりでは少しずつ行っている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が参加する過程があるものは発信をしているということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういうことである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それはどこにアクセスすれば一括して見れるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それはまとまっていない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのまとまりがあれば分かりやすい。どこをチェックすればそのイベントに行けるのか、そこが一番大事である。祭りに行きたいが、終わっていた時もある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我々も勝手にお知らせは出来ないし、主催者自身が SNS で告知できるようになってきているので、集約することが難しい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我々も情報発信を依頼されること多いが、五月雨式にくるので、直前の放送になることが多い。チラシの配付依頼もあるが、それも五月雨式に来て統一性がない。お願いしているのは、年間のスケジュールをまとめて発表して、また月 1 で発表すると効果があるのではないかとっているのだが、なかなかまとまったスケジュールが出てこない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月単位でも分かれば、チェックする気になる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あすぴあや市民活動ネットワーク等は、地域の市民活動団体の情報は取りまとめてニュースで事前に流し、事後のレポートも流しているが、色んな方が目に触れる形ではない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが学校からもらってきた市からの配付物は必ず入ってくるのでチェックできるが、SNS の発信ではどこを見たら一括分かるものというのではないので、それがあると有難い。</li> </ul>

2. アクションプランの振り分けについて	
発 言 者	会 議 内 容
委員長	・ 情報発信の強化のところの課題である。
委員	・ 情報のプラットフォームの一元化について、観光まちづくり協会が観光を、あすぴあが市民活動をそれぞれ行っているが、一元化すると良いが、事業費がかかるのでその予算を取ってもらうか、国の補助金に頼る形になると思う。
事務局	・ 市のイベントや神社については日程が全て決まっている。変更されることはほぼないので、その表を作成して皆さんにご理解いただけたらと思うが、商店街等になると日程の変更もある。
委員	・ 観光まちづくり協会のサイトでは、月に1度、月のイベントを集めて紹介している。
委員長	・ 情報ツールも日々変化していくので、最適で最新のものは何かなど、世代によって活用されているものが違うので、リサーチが必要なのではないか。一元化するのは難しく、個々に発信するツールは持っていて、それがフラットナビ等にアクセスできるような、そういうシステムが可能なのではないか。
委員	・ プラン 41 イベント準備過程の発信で、「イベント開催のお知らせという形ではなく」と書かれているが、今の話だとイベント開催のお知らせを知りたいということなので、この計画を作った時の思いとは違う議論になっている。また、イベント準備過程の発信であれば施策2に入ると思うが、施策7に入っている。観てもらいたいというよりは、自分たちが盛り上がるために、関わっている大勢の方達に身近に感じてもらいたいのではないか。人によって捉え方が異なるプラン名になってしまっている。
委員長	・ 新しい仕分けによって上手く分けられると良い。
事務局	・ プラン 39・プラン 40・プラン 42 で1つのテーマとしてプラン名ができ、プラン 41 とプラン 43 を統合するのは、ドキュメンタリーで、祭りがどのような形で作くり上げられ、当日成功したのかという流れをプラン 41 で言っていると思うので、プラン 43 を足すと良いものに仕上がるのではないか。次回提示したい。
委員長	・ 次に進みたいと思う。

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 44 特産品開発の支援は施策 3 に入っている。地域ならではの特産品を確立するため、話題性のある新商品（加工品、料理）の開発と、目玉と言える定番商品の確立を支援し、姉妹都市等の商品の活用も検討する。ブルーベリー商品や、今後梨の収量が上がってくるので梨を活用した産品を考え方向で今後とも継続したいがどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 45 とプラン 46 も含まれるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特産品の開発と、小平糧うどんは少し違う。プラン 46 についても、小平産ブルーベリーの名前はブランド化しているが、小平産ブルーベリーを使っていると聞くと、良いものを使っていると思っていただけるような名前の価値なので、プラン 44 とは違うのではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 44 はどちらかということ、これからの開発で、プラン 45・プラン 46 は既にあるものの PR ということか。プラン 45・プラン 46 の説明をお願いしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 45 小平糧うどんの PR 強化について、地域に伝わる小平糧うどんに注目し、地域の枠を越えた PR 活動により知名度の向上を目指す。小平糧うどんは小平の農家が食べていた料理である。糧というのは野菜で、大体の農家は野菜を天ぷらにして、うどんで食べていた。ただ野菜だけが入っている糧うどんを見て、「こんな貧しいものを昔から食べていない」という農家の方も多い。</li> <li>プラン 46 「小平産ブルーベリー」ブランド化推進については、小平市がブルーベリー栽培の発祥の地であることが根付いてきて、小平産のブルーベリーを使った山崎製パンのランチパックなど様々な商品が出てきているので、それをさらに進めていく方向で、45・46 はどちらも必要ではないかと考えているがどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続ということによろしいか。では次に進む。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 47 特産品を購入できる施設づくりについて、特産品の販売をはじめ、飲食や休憩などができる施設の確保について検討するということで、特産品を購入できる施設としては、ファーマーズ・マーケットに協力いただいて購入できる形になっている。飲食や休憩ができる施設の確保については、若干進んでいない部分があるので、引き続き継続と考えているがどうか。</li> </ul>

## 2. アクションプランの振り分けについて

発 言 者	会 議 内 容
委員長	・ 継続ということで、次に進む。
事務局	・ プラン 48 販路の拡大については、市民や来訪者が特産品を入手しやすくなるよう、小平ふるさと村の特産品コーナーの拡大や、JA の共同直売所の充実をはじめ、今も進めている。この販路の拡大は何についての販路なのか、「特産品を」という言葉を入れるのか、その辺の検討が必要ではないか。今小平市としては農産物の販路の拡大や様々なことを実施しているので、販路の拡大ということで全部まとめてしまうのか。
委員長	・ 課題について色々書かれているが、小平市以外の販路についても含まれているのか。
事務局	・ 市外も含まれている。コロナ禍で止まっていたこともあるので、継続して 4 年間でどれだけできるのかは必要だと思う。
委員長	・ 継続ということで、次に進む。
事務局	・ プラン 49 小平産特産品提供店舗の拡大について、小平産特産品の提供ができる店舗を増やす仕組みをつくるということで、プラン 47・プラン 48 とほぼ変わらないので、プラン 47 と統合してみてはどうか。
委員	・ 一緒にしていいと思う。
事務局	・ プラン 50 きめ細やかなサービス実施は施策 3 に入っている。大型店舗ではできない、商店会や小型店舗、個人商店ならではのきめ細やかなサービスを実施するということだが、範囲が広い感じが拭えないという意見もあるがどうか。
委員	・ 商店街をどうやって維持していくのかという時に、大型店舗と競うというよりは、人と人との関わり合いの部分でやっていくことが大事という趣旨であったと思う。
委員長	・ 魅力的な商店街づくりと、観光まちづくりの関係が非常に強いのではないか。
事務局	・ おもてなしの精神を現わしていると思う。特産品を購入できる施設では、大型店舗ではできない商店ならではのサービスを実施するということに繋

2. アクションプランの振り分けについて	
発 言 者	会 議 内 容
事務局	がる。しかし、きめ細やかなサービスの実施という表現が、プラン 45 以降つながらないので、表現を変更できたらと思うので、次回提示させていただきたい。
委員長	・プラン 50 まで駆け足で検討してきて、もう少し言いたいこともあったかも知れないが、この後、振り分けの表を完成させた時点で、再度検証することになると思うので、引き続きチェックをお願いしたい。

3. 素案について	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	◆資料説明：「第二次小平市観光まちづくり振興プラン（素案）（アクションプラン 1～20 まで反映した内容）【資料 4】
委員長	<p>・26 ページの小平市の課題の解消に向けてについて、皆さんから意見をいただいているので、その上でもう少し膨らましたり、書き加えたりするところが出てくると思う。特に観光まちづくり協会が新しくできて、10 年が経過している中で、今後の 4 年間、観光まちづくり協会と小平市がどのように連携していくのか、もう少し強く打ち出した方がいいので、次回具体的になってくると思う。</p> <p>32 ページ観光まちづくりにむけたアクションプランについて、戦略別アクションプランの説明が 2 行だが、前回と今回の話し合いを活かした形で、書き足していくことを事務局と話し合っている。それが次回素案の改訂版として出てくるので、目を通していただければと思う。</p>

4. 事務連絡	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	<p>・今後のスケジュールについて</p> <p>◆資料説明：「今後のスケジュール」【別紙 1】</p>

4. 事務連絡	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャッチフレーズについて</li> <li>◆資料説明：「キャッチフレーズに関するアンケート」【別紙２】</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回は２つ程度のグループに分かれて、シートをもとにディスカッションをして、その結果を報告し合って、考えていきたい。今のキャッチフレーズが生まれた背景を説明してほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プチ田舎という言葉が出たのは、田舎の温かさに対する回帰が 80 年代からずっと出てきている中で、小平の住宅地の中に残っている魅力は何か議論をしながら、プチ田舎という言葉をつけた。賛否はあったが、これを小平市は商標登録をして市のプロモーションの 1 つのキャッチフレーズとして使っている。様々な行政計画の中のキャッチフレーズというよりは、広く多くの人に認知されているものだと思っている。そういった意味では新しい計画ができるから、キャッチフレーズも変えた方がいいという判断よりも重く感じている。テレビ番組で紹介される時も、プチ田舎小平として様々なメディアに取り上げられているし、情報発信していく時もプチ田舎という伝わりやすい面もある。しかし、継続という話でもないので、様々な意見をいただいてから考えていくことが大事だと思っている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループに分けて 30 分程度話し合ってはどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局に任せる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提案だが、時間がいつも足りないので、30 分早く開催してはどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回は 9 時 30 分から 12 時開催とする。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回の検討委員会は 12 月 5 日（月）、福祉会館 3 階第 3 集会室で予定している。</li> </ul>